

## みなさんのあたたかい第3の居場所になりますように

ーが主催する「なよろ子ども支援プロジェクト」(子ども食堂、学習支援、居場所づくり)などに学生がスタッフとして参加しているのが、子ども食堂サークルの運営の方法です。

運営にあたっては、子どもたちが安心して過ごせる場を作ることや危機管理、子どもたちが自分で決められるようにサポートするなどのレストランを守って楽しく子どもたちと関わっています。

こうした安心して過ごせる場所を提供することで、食事や学習、体を動かす遊びなどを通して子どもたちだけでなく、巡り巡ってその子の親や地域住民などの第3の居場所になることを目標に活動しています。

また、近年子ども食堂の活動は注目されてきているため「子ども食堂」を耳にする方も多いのではないのでしょうか。しかし、注目されている中でも、子ども食堂と聞いたなら、「貧しい家庭の子どもがご飯を食べに行く場所」いうイメージを持っている人が多いのも実感しています。

確かに貧困対策のようない面もないとは言えませんが、実際に子ども食堂に参加してくれる子どもたちの中には、自主的に勉強をするために利用する子、私たち大学生と遊ぶために利用する子、少ない活動ではありますが、2-3カ月おきの定期的な開催を楽しみに毎回来てくれる子などが数多くいます。

偏見が多い分、利用することにハードルの高さを感じる人も多いと思います。私は活動に参加するたびに子どもたちからエネルギーをもらえたり、子どもたちから学ぶことばかりで、子ども食堂がもっと身近な場所になると良いなと思っています。

実は、子ども食堂という名前ですが、感染の不安から現在は食事提供が出来ていません。そのため



今後、感染の不安がなくなったら食事提供などもして、名寄市立大学の子ども食堂サークルの活動をもっと活発なものにしたいと思っています。皆さんも運営の方法やあり方をぜひ一緒に考えましょう。

社会福祉学科2年 平田そら